

2024・8

柏の景気情報

令和6（2024）年8月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年8月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

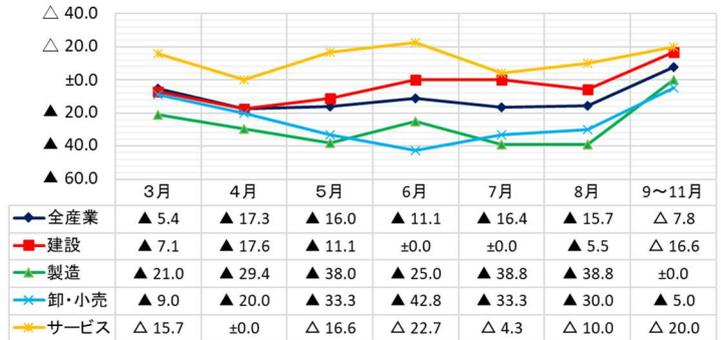
回答期間：令和6年8月20日～令和6年9月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数76

各業界人手不足の解消に苦慮の声。人員確保の為に賃上げを行うも、人件費が圧迫し利益は減少傾向

8月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.7（前月水準▲16.4）となりマイナス幅が0.7ポイント縮小した。

各業界、人手不足に対応すべく賃上げを行うも人材確保には至らず、人件費の割合が増加。サービス業では、猛暑や台風の影響により客足が遠のき、売上が鈍化した。一方、建設業では公共工事業関連の受注による好転が見込まれるも、制限された業務時間内では思うように作業は進まず。さらに、連日の酷暑による屋外の作業効率低下の声が寄せられる。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「今月の売上高は減少となったが、来月以降は増加が見込まれる。仕入単価は物価上昇の傾向からコスト高が予想されるが、防災関連や公共事業関連の受注増による採算利益ベースの好転を見込んでいる。受注に関して引き続き注視が必要である。定額減税については、好材料ではあるが、引き続き限定的である」（地質調査）「仕入れ単価の高騰に伴い新築工事の受注が減少しており工務店もお客様獲得に苦労している。工務店に対する請求単価が上がらないところに拍車をかけ仕事の件数が減っている」（とび）



「海外購入品が多く、為替の影響をモロに受けている状況、為替の先行きが見越せない」（その他の機械・同部品製造）「売上は上向きだが、原材料等の値上げにより収益は下振れで利益率が悪いが製造メーカーとしては、先行き設備投資もしていけないと今後は厳しい状況。少子高齢化社会の中で速戦力になる人材を如何に採用するかが課題」（その他鉄鋼）



「最近までの急激な円安で仕入れ単価が上昇し粗利が極端に減少。また別の問題として、仕入単価の上昇とともに、在庫額が増加。しかし、若干円高にブレてきたので、利益は取り戻しつつある。また人員確保に苦労しており、求人の際に今までよりも1割高い初給設定にするため、既存の社員の給料もそれに合わせるしかなく、管理費の中に占める人件費の割合が増加してきている。」（建築材料卸売）「お盆休みまでは雨天の少なさも後押しし客数増も、後半の迷走台風の影響でやや失速する長引くコスト高、値上げ影響もあり、好調を牽引してきた食物販・サービス関連もやや鈍化傾向。」（百貨店）



「人手不足と資材の高騰、商材の値上がりが続いている。金利が上昇しているために、購入客が減少してきている。この所猛暑の影響で全体として商品の売買、賃貸の動きも鈍っている」（不動産管理）「猛暑の影響で来場者、単価ともに減少。夜間も気温と湿度が下がらずに業況が悪化した。来月からは繁忙期となるが、最低賃金の50円アップ、消耗品や工事代金の度重なる値上げで利益は減少する見込」（ゴルフ練習場）「世の中さまざまな価格高騰に消費者がついていけない状況がエンドユーザーを扱う飲食業にもみられる。富裕層を扱う会社はまだ転嫁しやすいが一般消費者を扱う企業は価格転嫁に苦む。」（専門料理店）

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で、柏のほうがマイナス幅が0.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.7	 ▲ 5.5	 ▲ 38.8	 ▲ 30.0	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.4	 ▲ 11.6	 ▲ 24.4	 ▲ 18.4	 ▲ 5.2
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 3.9	 ±0.0	 ▲ 27.7	 ▲ 10.0	 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 1.4	 ▲ 3.1	 ▲ 8.9	 ▲ 4.3	 9.6
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.7	 ▲ 5.5	 ▲ 44.4	 ▲ 25.0	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.4	 ▲ 13.1	 ▲ 18.0	 ▲ 19.4	 ▲ 7.8
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 59.2	 ▲ 33.3	 ▲ 77.7	 ▲ 70.0	 ▲ 55.0
CCI-LOBO	 ▲ 63.8	 ▲ 71.9	 ▲ 59.3	 ▲ 69.6	 ▲ 60.3
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.1	 44.4	 ▲ 11.1	 ±0.0	 35.0
CCI-LOBO	 22.2	 35.3	 12.3	 20.4	 28.0
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 1.3	 11.1	 ▲ 11.1	 ▲ 15.0	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.6	 ▲ 3.8	 ▲ 16.1	 ▲ 17.6	 ▲ 8.5

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：2024年8月15日～21日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、物価高が重荷で力強さを欠き、ほぼ横ばい

先行きは、消費回復等への期待感から明るい兆し

8月の全産業合計の業況DIは、▲15.4と前月比からプラス0.9ポイント。

小売業は、百貨店が引き続き好調なほか、猛暑に伴う飲食品や夏物商材の需要増で改善した。卸売業は、飲食品関連の引き合い増で改善し、建設業は、公共工事の下支えで改善した。一方、サービス業は、観光業で夏休み需要の恩恵が見られたものの、消費者の節約志向や異常気象等による外出控えが下押しし、ほぼ横ばいとなった。製造業は、企業の設備投資が伸び悩み、機械器具関係を中心に悪化した。

実質賃金のプラス転換等、個人消費回復の兆しがうかがえる一方、原材料価格や電気代、輸送費等の高騰による

コスト増は続いている。また、人手不足の中、賃上げ等に向けた価格転嫁も追い付かず、中小企業の業況は力強さを欠く。

先行き見通しDIは、▲13.9と今月比からプラス1.5ポイント

長引く物価高による購入意欲の低迷に加え、深刻な人手不足による受注機会の損失や、継続するコスト増に対する価格転嫁の遅れ等、経営課題の山積は続いている。

一方、定額減税や賃上げによる実質賃金のプラス転換で、個人消費の回復が期待される。また、酷暑乗り切り緊急支援による電気・ガス代の補助や歴史的な円安の一方でコスト減が見込まれ、先行きは微かに明るい兆しが見られる。

【建設業】

「公共工事は、資材価格の上昇分をある程度工事費に反映してもらえませんが、スピードは追い付いていない。民間工事は、負担を施主に求め

れず、自社の利益を削ることになってしまっている。酷暑で休憩時間も多く取る必要があり、工事が遅延している中で今後の台風の影響が心配される」(一般工事業)

「価格協議において、詳細な資料を提出し、交渉に時間をかけても、発注者と適正価格の認識に乖離があり、希望通りにはいかない」(普工事業)

【製造業】

「為替が乱高下しており、業績が安定せず困っている。人手不足が深刻の中、取引先から急な仕様変更やオーダー停止を求められることが多く、生産性が悪化している」(自動車・付属品製造業)

「需要が弱く、取引先の大企業が在庫調整を継続しており、受注不振が続く、売上は伸び悩んでいる」(金属加工機械製造業)

【卸売業】

「猛暑はあったものの、定期的な降雨や産地リレーによって農林水産品の供給量は安

定しており、売上は堅調。一方で、今後も猛暑が続くことによる供給量の減少や台風による不作、物流の停滞の発生を懸念している」(農畜産水産物卸売業)

「取引先に価格協議を申し込んでも、同業他社からは要求が無いと言われ、希望する価格での交渉が出来ない」(繊維品卸売業)

【小売業】

「今夏は各地でお祭り等のイベントが賑わいを見せ、関連商品の販売量が増加し、商品不足になるほどだった。秋にかけても引き続き商品在庫の管理等に努めていく」(服飾品小売業)

「地元住民の節約志向が継続していることに加え、あまりの暑さで商店街に人がおらず、来店頻度自体が減少している」(調理器具小売業)

【サービス業】

「夏休み需要の恩恵もあり、売上は堅調だった。しかし、猛暑や豪雨等の異常気象に加え、一番のかき入れ時であったお

盆に「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたことで、想定よりも売上は伸び悩んでしまった」(飲食店)

「依然として顧客の節約志向が高く、物価高で料金改定を行いたくても、低価格な同業他社への顧客流出を懸念して、価格を据え置くしかない」(理容業)

全国・産業別業況DIの推移

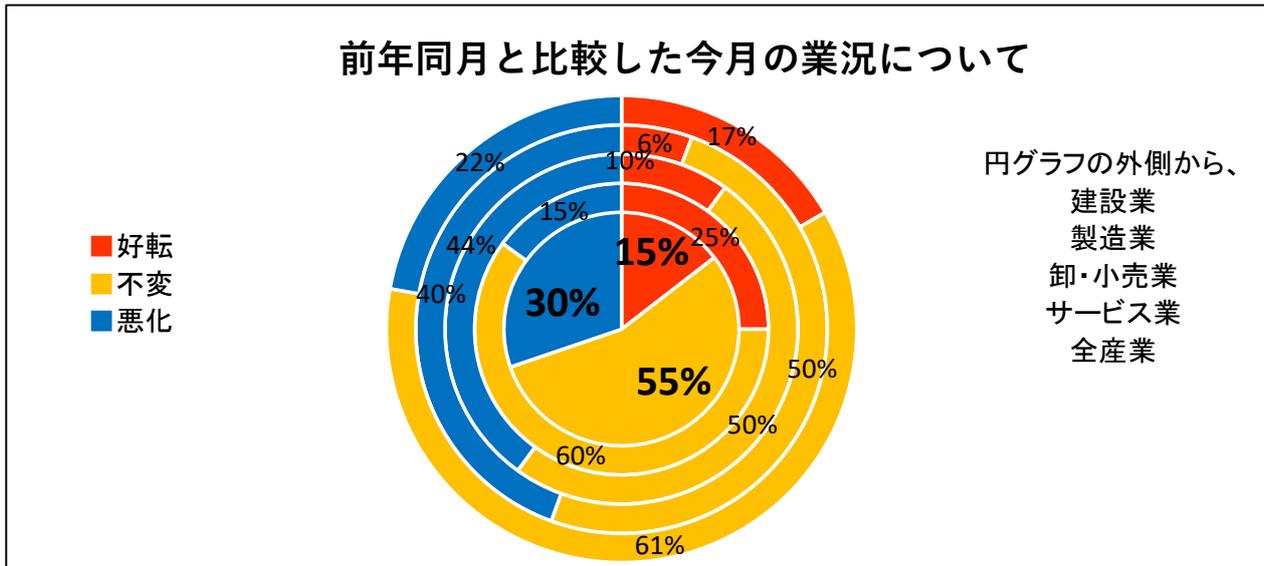
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲12.9	▲15.6	▲14.8	▲17.4	▲17.9	▲3.8
4月	▲14.0	▲16.5	▲21.7	▲16.6	▲16.5	▲2.4
5月	▲11.4	▲16.5	▲13.6	▲14.8	▲16.6	▲0.8
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲6.0
7月	▲16.3	▲13.1	▲22.8	▲24.0	▲20.8	▲5.4
8月	▲15.4	▲11.6	▲24.4	▲19.9	▲18.4	▲5.2
見通し	▲13.9	▲7.8	▲14.3	▲22.1	▲18.9	▲10.0

令和6年（2024年）8月の動向

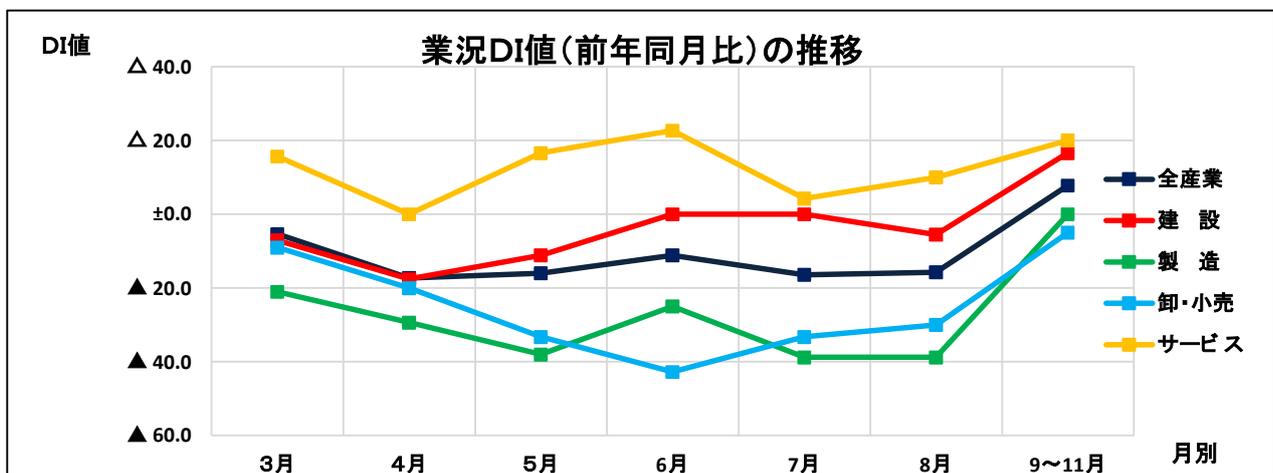
【業況について】

- 8月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.7（前月水準▲16.4）となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、△7.8（前月水準▲5.0）となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。



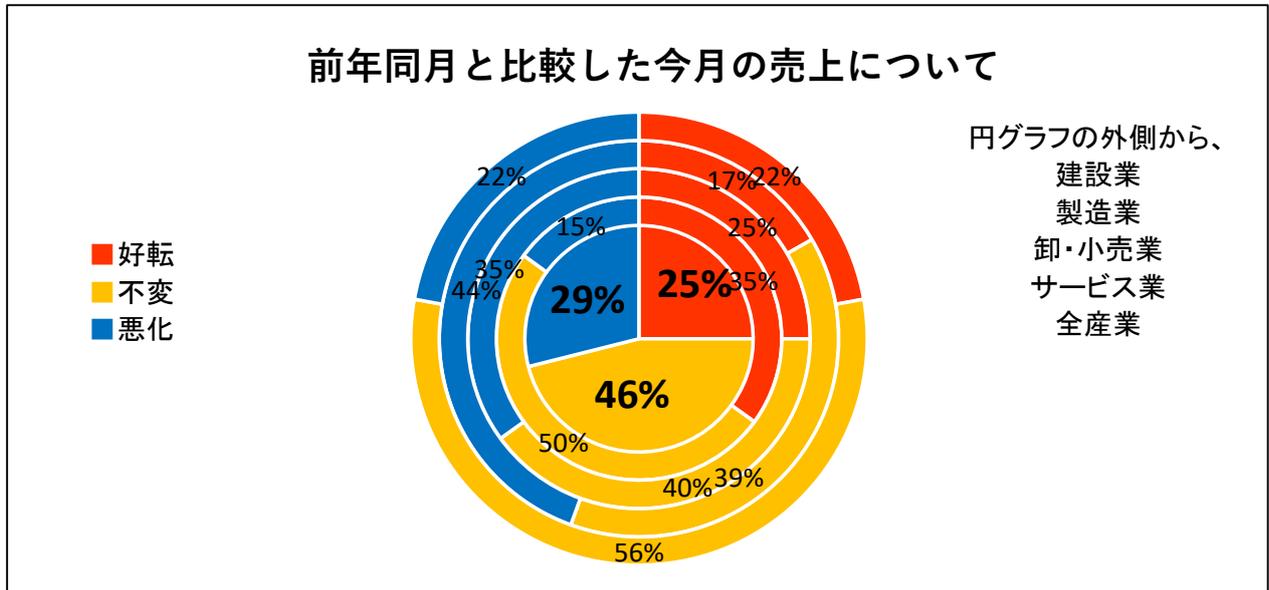
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	▲5.4	▲17.3	▲16.0	▲11.1	▲16.4	▲15.7	△7.8 (▲5.0)	
建設	▲7.1	▲17.6	▲11.1	±0.0	±0.0	▲5.5	△16.6 (△11.7)	
製造	▲21.0	▲29.4	▲38.0	▲25.0	▲38.8	▲38.8	±0.0 (▲22.2)	
卸・小売	▲9.0	▲20.0	▲33.3	▲42.8	▲33.3	▲30.0	▲5.0 (▲9.5)	
サービス	△15.7	±0.0	△16.6	△22.7	△4.3	△10.0	△20.0 (±0.0)	



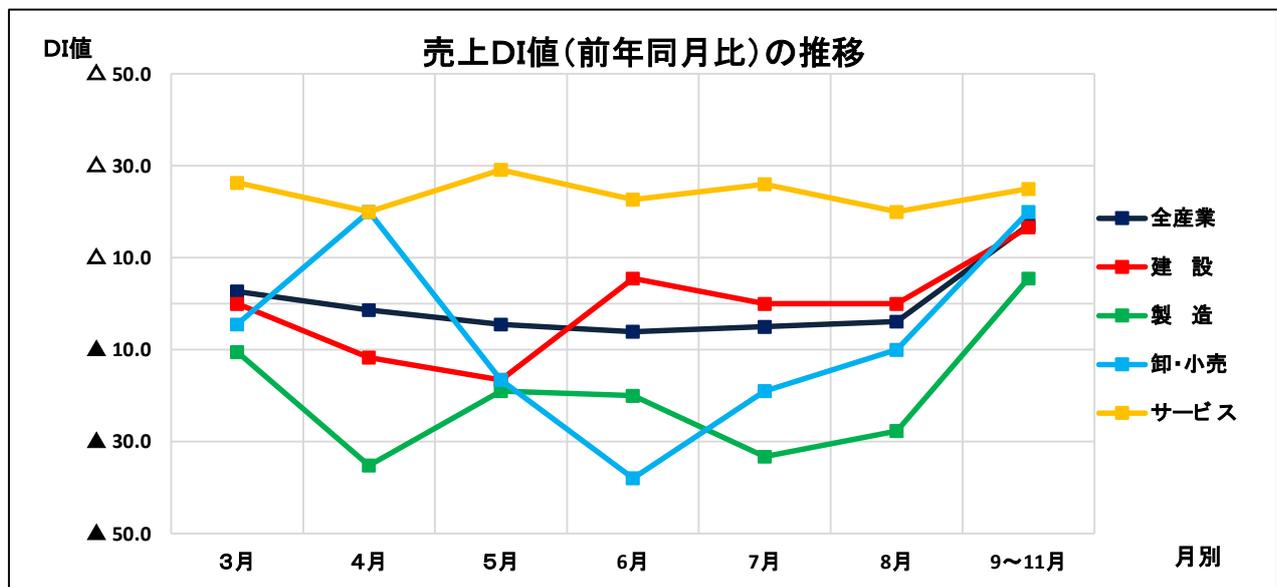
【売上について】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲3.9(前月水準▲5.0)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.1(前月水準±0.0)となり、マイナス幅が17.1ポイント縮小した。



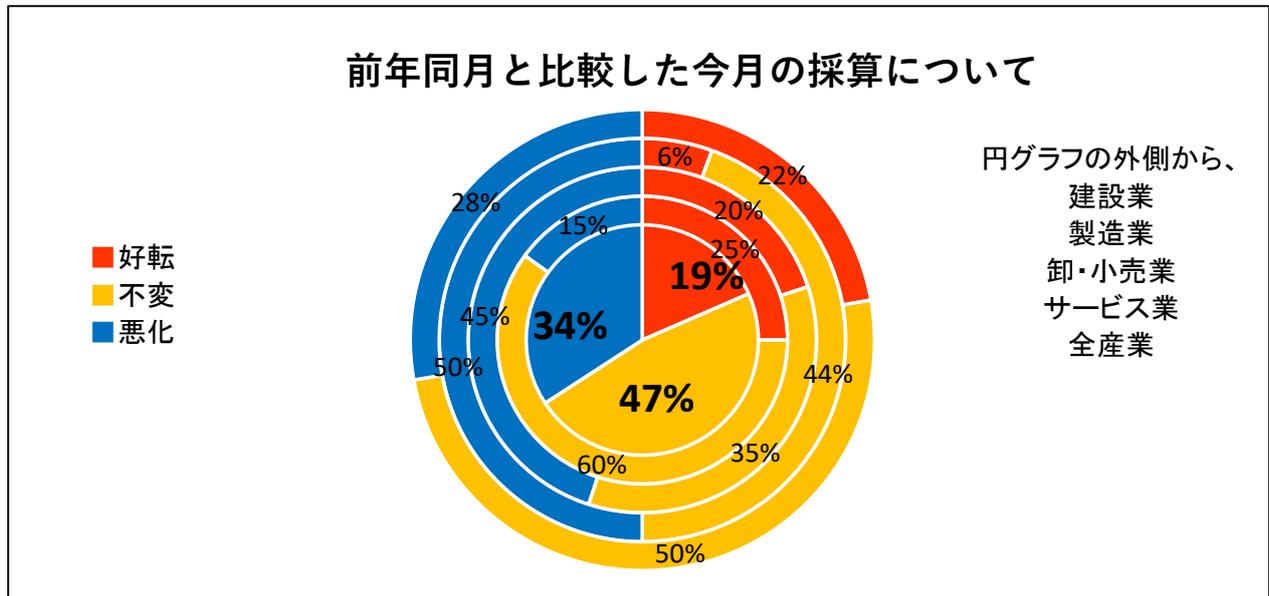
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	△2.7	▲1.4	▲4.5	▲6.1	▲5.0	▲3.9	△17.1 (±0.0)	
建設	±0.0	▲11.7	▲16.6	△5.5	±0.0	±0.0	△16.6 (△11.7)	
製造	▲10.5	▲35.2	▲19.0	▲20.0	▲33.3	▲27.7	△5.5 (▲22.2)	
卸・小売	▲4.5	△20.0	▲16.6	▲38.0	▲19.0	▲10.0	△20.0 (±0.0)	
サービス	△26.3	△20.0	△29.1	△22.7	△26.0	△20.0	△25.0 (△8.6)	



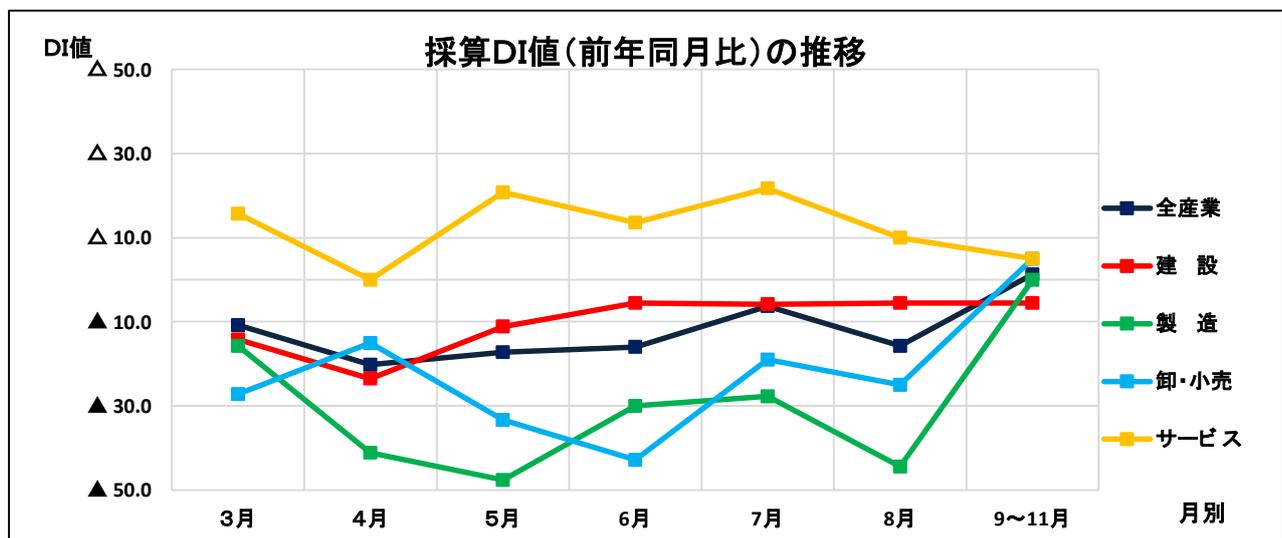
【採算について】

- 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.3(前月水準▲8.8)であり、マイナス幅が10.1ポイント縮小する見通しである。



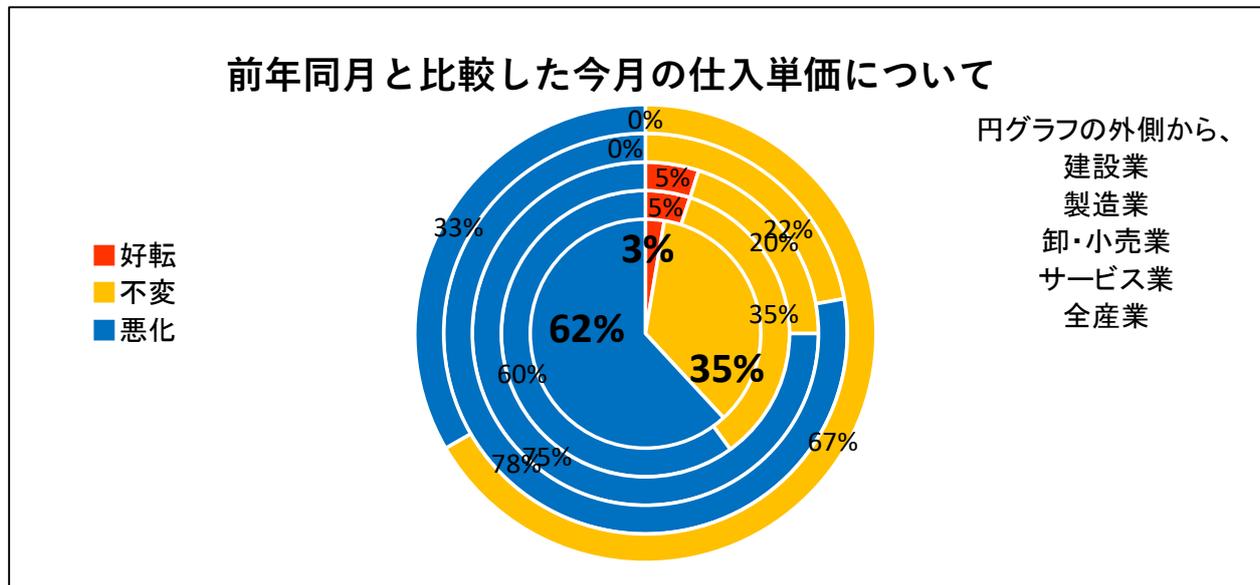
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	▲10.8	▲20.2	▲17.2	▲16.0	▲6.3	▲15.7	△1.3 (▲8.8)	
建設	▲14.2	▲23.5	▲11.1	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲5.5 (▲5.8)	
製造	▲15.7	▲41.1	▲47.6	▲30.0	▲27.7	▲44.4	±0.0 (▲27.7)	
卸・小売	▲27.2	▲15.0	▲33.3	▲42.8	▲19.0	▲25.0	△5.0 (▲4.7)	
サービス	△15.7	±0.0	△20.8	△13.6	△21.7	△10.0	△5.0 (±0.0)	



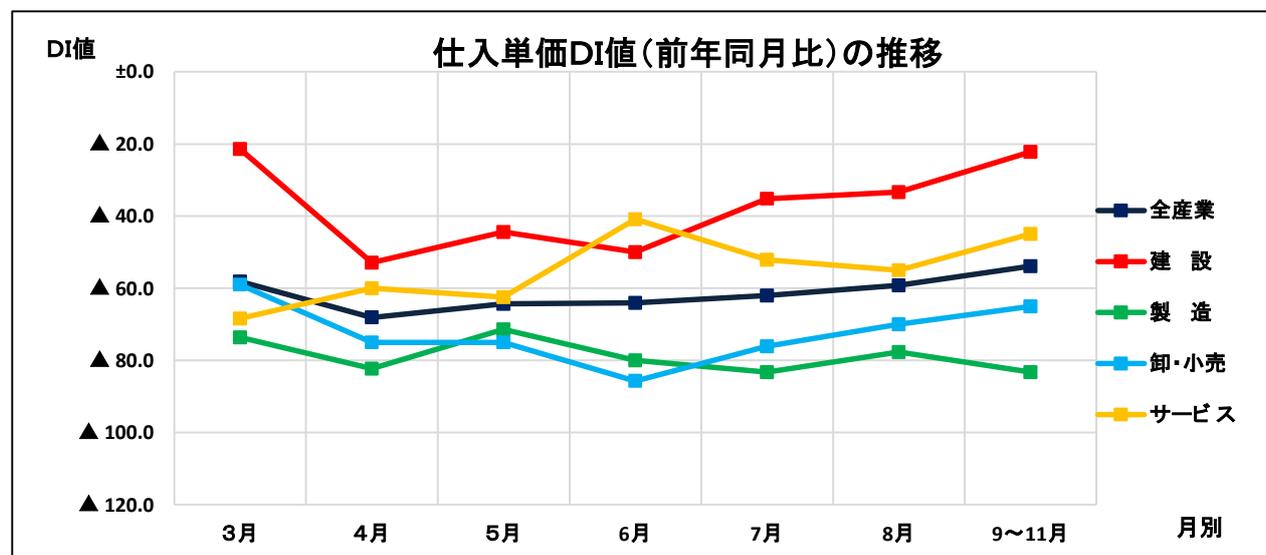
【仕入単価について】

- 8月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.2(前月水準▲62.0)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.9(前月水準▲43.0)となり、マイナス幅が10.9ポイント拡大する見通しである。



仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

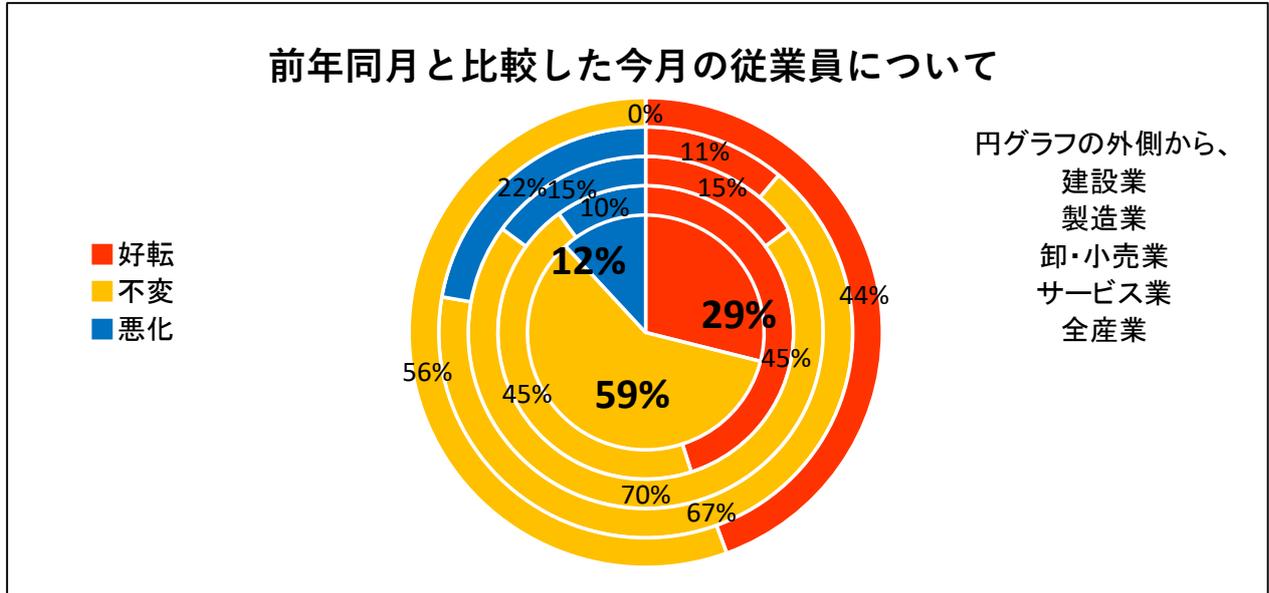
	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	▲58.1	▲68.1	▲64.3	▲64.1	▲62.0	▲59.2	▲53.9 (▲43.0)	
建設	▲21.4	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲35.2	▲33.3	▲22.2 (▲35.2)	
製造	▲73.6	▲82.3	▲71.4	▲80.0	▲83.3	▲77.7	▲83.3 (▲66.6)	
卸・小売	▲59.0	▲75.0	▲75.0	▲85.7	▲76.1	▲70.0	▲65.0 (▲52.3)	
サービス	▲68.4	▲60.0	▲62.5	▲40.9	▲52.1	▲55.0	▲45.0 (▲21.7)	



【従業員について】

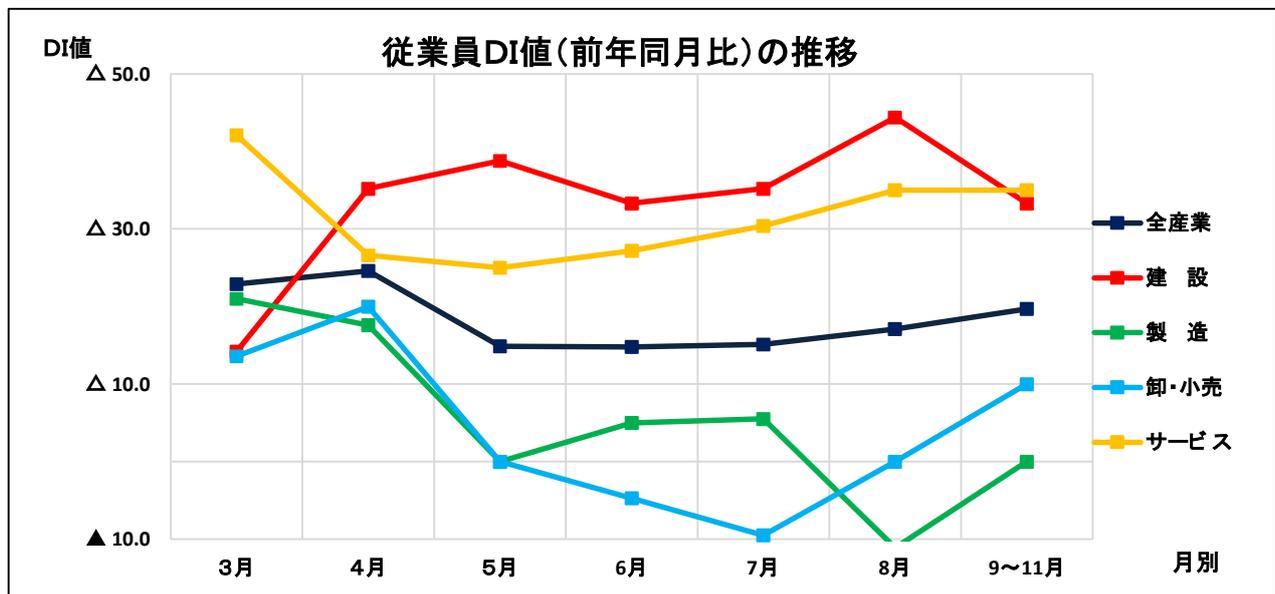
○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△17.1(前月水準△15.1)となり、プラス幅が2.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△19.7(前月水準△17.7)となり、プラス幅が2.0ポイント拡大する見通しである。



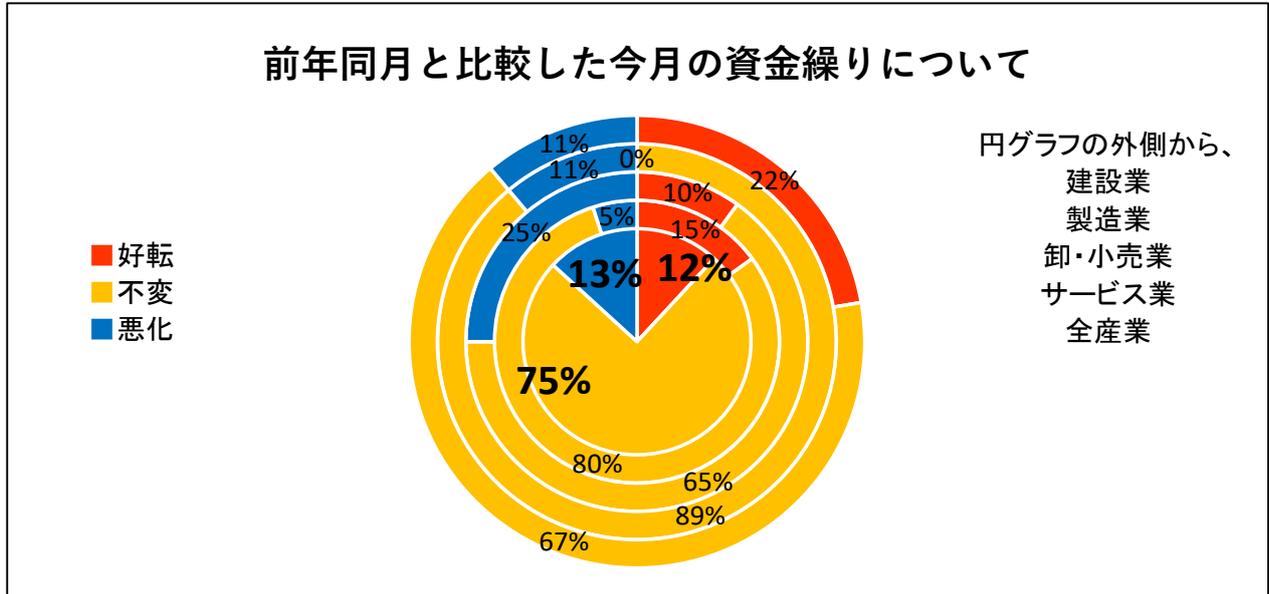
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	△22.9	△24.6	△14.9	△14.8	△15.1	△17.1	△19.7 (△17.7)	
建設	△14.2	△35.2	△38.8	△33.3	△35.2	△44.4	△33.3 (△41.1)	
製造	△21.0	△17.6	±0.0	△5.0	△5.5	▲11.1	±0.0 (△11.1)	
卸・小売	△13.6	△20.0	±0.0	▲4.7	▲9.5	±0.0	△10.0 (▲9.5)	
サービス	△42.1	△26.6	△25.0	△27.2	△30.4	△35.0	△35.0 (△30.4)	



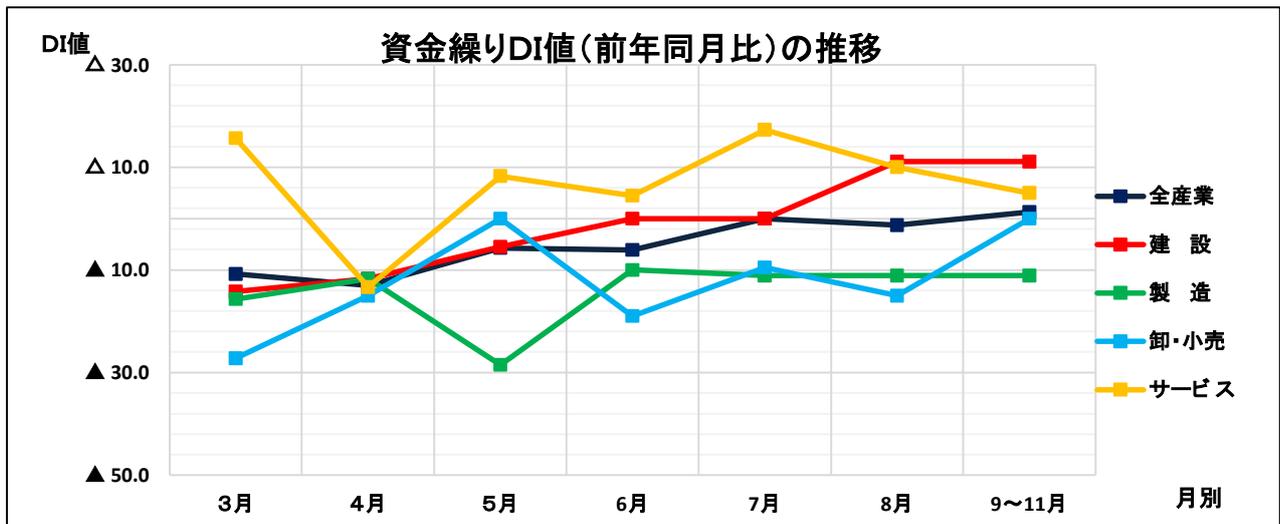
【資金繰りについて】

- 8月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.3(前月水準0.0)となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.3(前月水準▲1.2)となり、プラス幅が2.5ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月 (8~10月)	
全産業	▲10.8	▲13.0	▲5.7	▲6.1	±0.0	▲1.3	△1.3 (▲1.2)	
建設	▲14.2	▲11.7	▲5.5	±0.0	±0.0	△11.1	△11.1 (△17.6)	
製造	▲15.7	▲11.7	▲28.5	▲10.0	▲11.1	▲11.1	▲11.1 (▲11.1)	
卸・小売	▲27.2	▲15.0	±0.0	▲19.0	▲9.5	▲15.0	±0.0 (▲4.7)	
サービス	△15.7	▲13.3	△8.3	△4.5	△17.3	△10.0	△5.0 (△4.3)	

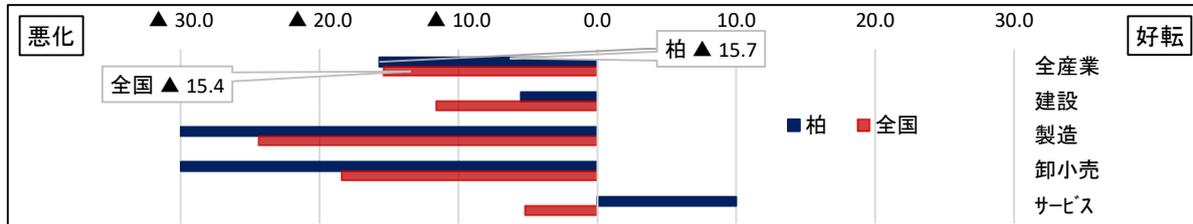


全国（CCI-LOBO）との比較

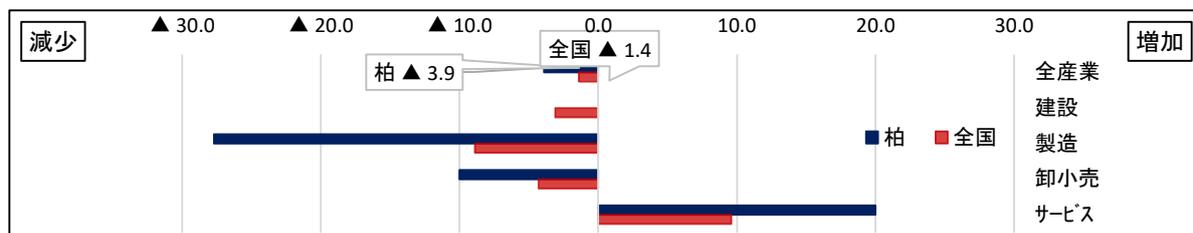
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

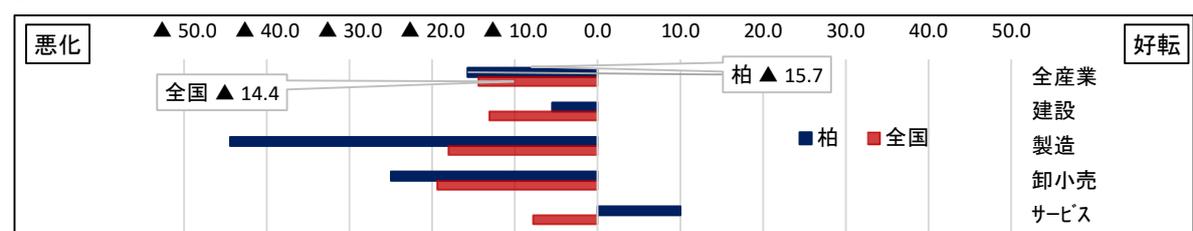
【業況D I】



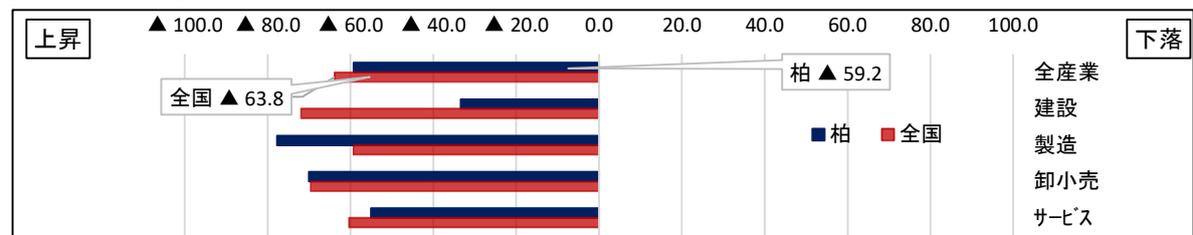
【売上D I】



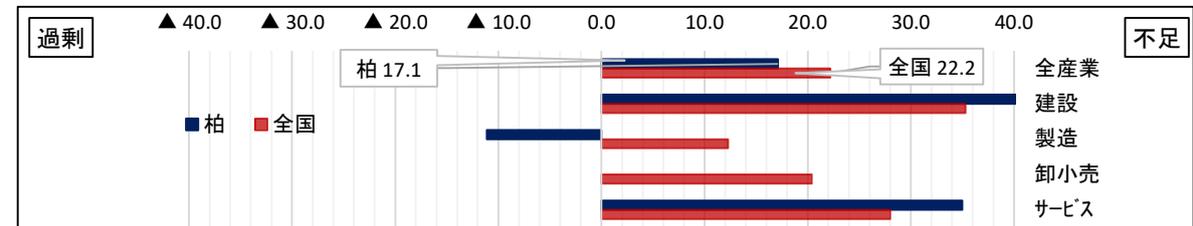
【採算D I】



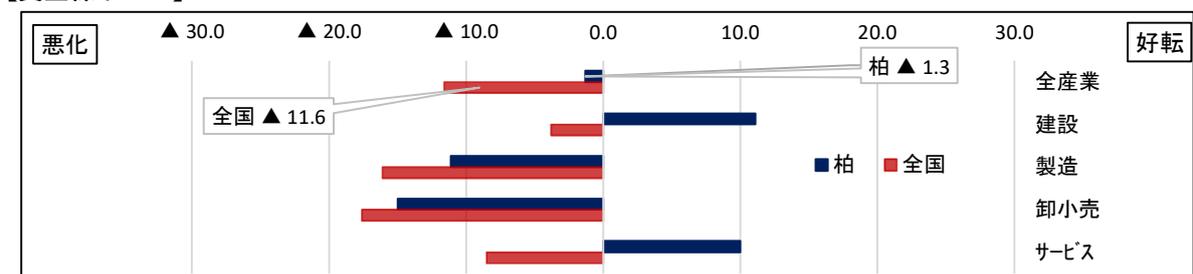
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	切手代が上がる前に請求書が電子化されていますが、慣れるまで手間がかかります。	畳工事請負・畳製造販売業
	仕入れ単価の高騰に伴い新築工事の受注が減少しており工務店もお客様獲得に苦労している。 工務店に対する請求単価が上がらないところに拍車をかけ仕事の件数が減っている	とび
	今月売上高は減少の見込みより減少となったが、来月以降は増加が見込まれ、仕入単価は物価上昇傾向から上昇からコスト高の上昇は見込まれるものの、防災関連や公共事業関連の受注見込みから採算利益ベースの好転を見込んでいるものの、受注に関して引き続き注視が必要である。 定額減税については、好材料ではあるが、引き続き限定的である。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	相変わらず化粧品容器の受注新企画が全く回復しない。医療品容器の企画受注で何とか食いつないでいる状況で見通しはかなり苦しい。	プラスチック加工
	海外購入品が多く、為替の影響をモロに受けている状況、為替は先行きが見越せない。	その他の機械・同部品製造業
	売上は上向きだが、原材料等の値上げにより収益は下振れで利益率が悪いが製造メーカーとしては、先行して設備投資もしていかないと今後は厳しい状況 少子高齢化社会の中で速戦力になる人材を如何に採用するかが課題	その他の鉄鋼業
卸・小売業	最近までの急激な円安で仕入れ単価が上昇し粗利が極端に減少していた。また別の問題として、仕入れ単価の上昇とともに、在庫額が増えてしまっている。 若干円高にブレてきたので、利益は取り戻しつつある。 中小企業の人員確保に苦労をしており、求人の際に、今までよりも1割高い初給設定というのが当たり前になっている。結果、現在の社員の給料もそれに合わせるしかなく、管理費の中に占める人件費の割合が増えてきている。	建築材料卸売
	お盆期間は流出の傾向で例年厳しいが今年も同様の動向だった。夏休みのダイナソータウンのイベントでは柏駅前周辺にお子様が増え、いつもと違う光景となった。ただ、店内に引き入れるまでにはいかなかった。買い物傾向は閉店も影響し衣料品や肌着など買いためが増えてきている。	大型小売店
	・お盆休みまでは雨天の少なさも後押しし客数増も、後半の迷走台風の影響でやや失速する ・長引くコスト高、値上げ影響もあり、好調を牽引してきた食物販・サービス関連もやや鈍化傾向。	百貨店
	*時給(賃上げ)の対応について人件費の見直しが必要。	その他の各種商品小売業

【業種別】 業界内トピックス

サービス業	<p>世の中のさまざまな価格高騰に消費者がついていけない状況がエンドユーザーを扱う飲食業にも見られる。富裕層を扱う会社はまだ転嫁しやすいが一般消費者を扱う企業は価格転嫁に苦しむ。</p>	専門料理店
	<p>根も葉もない噂・・・東口再開発が独り歩きし既存テナントが撤退するヒドイ状況下です。反対に西口再開発は高島屋が撤退し最高売上しています。この扱いの差は何でしょう。</p>	不動産賃貸業
	<p>人手不足と資材の高騰、商材の値上がりが続いております。金利が上昇しているために、購入客が減少しています。この所の猛暑の影響で全体として商品の売買、賃貸の動きも鈍っています。</p>	不動産管理業
	<p>やめる社員の穴を埋めるために求人に掲載してますが本当に人手不足を実感してます。</p>	他に分類されない事業サービス業(室内装飾・展示会装飾)
	<p>猛暑の影響で来場者、単価ともに減少。夜間も気温と湿度が下がらずに業況が悪化した。来月からは繁忙期となるが、最低賃金の50円アップ、消耗品や工事代金の度重なる値上げで利益は減少する見込み。</p>	ゴルフ練習場
	<p>地震・台風などにより、予約のキャンセルが多い特に台風による新幹線の計画運休は厳しい 取消料の収受はできない、泣かされる。 相変わらずの人手不足、給料、休日の数、福利厚生など大手並みにはできない、中小零細の限界を感じる。</p>	旅行
	<p>猛暑で日中の屋外作業効率が低下</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>夏期講習の売上は昨年とほぼ同額となったが、昨年10月に時給を上げた影響で、収益自体は約2割減となった。</p>	学習塾

調査要領

回答期間

令和6年8月20日 ～ 令和6年9月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	76	43.9%
建設	38	18	47.4%
製造	44	18	40.9%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	20	44.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				